加悦小学校

理 解 教 育 だより

令和5年3月17日

補聴器の役割について教えてもらいました。

障害者理解教育を行いました

３学期、低学年は聴覚障害、中学年は肢体不自由（車いすのお友達）、高学年は視覚障害について講師を招いて学習を行いました。ねらいとしては、子ども達が話を聞くことで障害について深く知り、体験を通して生活での困り感について理解することで、実際に障害者に出会った時に何かできるか、どんなことに気を付けたらよいかを学ばせることです。

講師の先生には、発達段階に合わせて、分かりやすい例えやクイズを出してもらう等工夫して話してもらったり体験の時間を多く取ってもらったりすることで、子ども達は、実感を伴って話が理解できた様子でした。

1、2年

京都府立聾学校舞鶴分校の浅井先生と鈴木先生から、聾学校の校舎や学んでいる友達を紹介してもらいながら、補聴器とその仕組みについて、実物を見せてもらいながら説明してもらいました。また補聴器だとどのように聞こえるのか、実際の音を流してもらうことで周囲の雑音も聞こえてしまうことが分かりました。

〈子どもたちの感想〉

1ねん

ほちょうきをつけているともだちにであったら、まえからこえをかける。かや小学校とろう学校のちがいが、よくわかったです。ほちょうきをつけているともだちには、一人ずつはなしかけたいです。

1ねん

はじめてほちょうきを見ました。ろう学校にいる人が５人ですくないとおもいました。ほちょうきをしているとまわりがうるさいときこえにくいことがわかりました。

2年

わたしは、耳の聞こえにくい人の話を聞いて、チャイムがなってても聞こえにくいから、ろう下とかうんどうじょうとかいろいろなところに、パトライトがいっぱいあるのだなと思いました。話しかける時に、後ろから話しかけるのじゃなくて、前から話しかけるのだなと思いました。ほちょうきには、マイクとかいろいろついているのを、はじめて知りました。耳のけんさ室もあるのだなと思いました。

3、4年

3年生は、特別養護老人ホームやすら苑の職員の吉岡さんと廣野さんに、4年生は、丹後福祉応援団の丸谷さん、山本さん、矢谷さんに来ていただき、車いすを使う人は、どのようなことが不自由でどのような工夫が必要かを学びました。ハンディキャップ体験の後に介護体験をしたことで、乗っている人が安心できる介護の仕方を学びました。

3年

車いすの人は、だんさがあるところはむずかしいと分かりました。やってみて、だんさがあるところはむずかしかったです。ほかにもジグザグのコーンをよけるコースもむずかしかったです。１年生、２年生の時にもやって、もうわすれたけど今日、車いす体けんをして、前に話をした内ようが思い出せてうれしかったです。今度、このじゅ業をするときは、わすれずにおぼえておきたいです。そして分かったことは、１年生のころは車いすの乗り方が分からなかったけど、２年生と３年生になってから分かりました。

◇介助の仕方を教えてもらいました。

3年

車いすに乗る時、おりる時には、ぜったいにブレーキをかけることがはじめて分かりました。車いすの使い方が分かりました。車いすをおしてあげる時は、相手をこわがらせずに、声をかけてから曲がったりだんさをこえたり、動いたりすることが分かりました。坂道を下る時には、車いすに乗っている人を先にして下るのじゃなくて、自分が先に後ろむきで下ることが分かりました。もしも車いすに乗っている人に出会ったら、まず一番に声をかけてあげることが大事と知りました。（一部略）

4年

車いすの人は、こんなに大変な気持ちだというのが伝わりました。１ 人では、かいだんやだんさは上がれない、その人の苦ろうや、また歩きたいという思いも伝わりました。あと、車いすの運転（そうさ）はむずかしいことが分かりました。車いすでは、１ 人でできないこと、反対に１人でできることもあるけど、こまっている車いすの人を見たら、手伝ってあげたいです。